

紫藤通信

第65回 入学式

花冷えの四月七日、第六十五回入学式が挙行された。二七四名の新入生を迎えて、学校長からは三つの心掛けが述べられた。我が校の校訓である「質実」「叡智」「愛敬」をもとに、「太い生徒になること」「学びの調和を図ること」「忍耐力・集中力を図ること」によって、高校生活をかけて個の能力を伸ばし、自分づくりをするようにと激励の言葉があった。

続いて、野口一夫山村学園短期大学学長代読による理事長の祝辞には、高校生活は成長の可能性がある時期であり、確かな学力を身に付けるようにとあった。また、我が校のシンボルマークである斜めのラインによって仕切られる5つの三角形が、「5大陸」の意味があることを取り



上げて、グローバル社会に生きる私達には「語学力」が大切であり、そしてその挑戦する先に見えるものを知ってもらいたいと説かれた。そして後援会の佐藤さくら会長、むらさき会野島康子副会長からも温かい言葉が送られた。新入生を代表して、小林千聖（鳩山中）からは感謝の意と高校生活への決意のもとで、厳かな式が締めくくられた。

一年生の皆さんが本校に入學して、四ヶ月が経ちました。高校生としての、自分なりの生活リズムがつかめた頃ではないかと思えます。そこで、今後の皆さんに期待することを記します。

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221
印刷所
有限会社 須賀印刷
http://www.yamamura
kokusai.ed.jp

新入生へのメッセージ

新入生に期待すること

校長 山田 良秋

一年生の皆さんが本校に入學して、四ヶ月が経ちました。高校生としての、自分なりの生活リズムがつかめた頃ではないかと思えます。そこで、今後の皆さんに期待することを記します。

高校生の本文は勉強をすることです。学校での勉強に加え、家庭学習(学年+一時間が基本)も大切です。また、勉強は教科として学ぶもの以外のものもあります。たとえば社会体験などもその一つです。この勉強は、好ましい体験からでないと、良い学びは得られません。重要なのは、良い環境の中での体験なのです。そのためには良い友達を選ぶ必要があります。更に、部活動等にも頑張つて欲しいと思います。仲間と一緒に頑張つたことは、結果を抜きにしても、友達関係などが将来の大きな財産となります。

結びに、勉強や部活動等の成果には「忍耐力」と「集中力」が鍵を握ることを付け加えます。皆さんの今後の頑張りに期待しております。

蟬螂

森陽外は、明治十七年から同二十一年にかけて、ドイツに留学している。日本の軍医としては最初の留学生であり、衛生学を修めて帰国した。その翌年、陽外の後を追って一人の女性が日本にやってきた。エリーゼ・ヴィーゲルトである。彼女は、陽外の一族に説得され、空しく帰国している。翌明治二十三年一月、陽外は『国民之友』に『舞姫』を発表した。周知のごとく、この小説のモデルは、陽外とエリーゼである。『舞姫』は何故執筆され発表されたのだろうか

▼明治期の知識人は、この国有史以来、初めて「国家」という概念と直面することになる。同時に、その概念を明確にし得た者だけが日本という「国家」を牽引する任を負うた。その一人として陽外がいる。ドイツ留学における近代的自我の目覚めは、彼を孤独にした。同時に、孤独に耐えるべき方向性も示した。陽外の場合、この方向性が自らのドイツにおける失行を公表する覚悟であったと言えらる。『舞姫』を書き公表することで、自己の孤独に鞭を加えた。ただ、小説という形態に陽外の逃避がなかったとはいえない。

新入生研修



現地での天候がやや心配された新入生研修は、予定通り四月十日から十二日まで、白樺湖を望む山腹にある八子ヶ峰ホテルを中心に行われた。三月末の下見の時に見られた残雪もほとんどなく、行き帰りのバスも含めて無事研修を終えることができた。

新入生研修の目的は、まず山村国際高校の高校生としての自覚を持ち、そしてHRや体験学習を通じて、クラスメイトと協力しながら親睦を深めることにある。その趣旨に即し開校式では、教頭から本校の教育理念に関する講話があった。つづいて学年主任からは、有意義な

高校三年間を過ごすための心構えが話された。また各HRでは、中学と高校の違いという観点から、生活指導上・学習指導上の注意点が話された。

クラスメイトとの協力という点では、まず本校の校歌をひとりひとり覚えて、クラス単位で発表する時間が設けられた。八子ヶ峰ホテルへ向かうバスや、現地でのホームルームで、どのクラスも一生懸命に練習していたことが伝わってくる発表であった。一位は七組、二位は一組、三位は二組であったが、他のクラスも含めて、その差はわずかであった。ホテルの御上さんからは、「今までで一番良く歌えていたと思います」との好評を得た。

二日目の昼食前に行われた飯盒炊飯は、風がやや強く心配されたが、予定通り実施された。薪につけた火が消えてしまい悪戦苦闘する班、カレーの具材を厚く切つてしまい、なかなか火が通らない班もあった。火加減を調整できない困難の中で、ご飯を上手に炊けた班は、正直なところ少なかったようだ。一方で班内



の役割分担はおおよそできており、協力という点では充分合格点をつけられる状況であった。例えば上手にカレーライスを作れなかったとしても、あとでその失敗も笑って話せる良い思い出になったことだろう。



帰宅前に寄った八子ヶ峰ホテル近くのルミエールでは、生徒ひとりひとりが蕎麦打ちを体験した。初めて体験する生徒がほとんどであったが、時にスタッフの手助けを得ながら、時にはクラスメイトの作業を見ながら、そして教え合いながら無難にこなす生徒の様子が多々見られた。最後に蕎麦を細く切る作業が、生徒にとっては最も難しかったようだ。しかし、どれも正真正銘味は蕎麦。最後は、班ごとに和やかに自分たちで打った蕎麦を食べていた。

まだまだ高校生活はスタートしたばかり。幸先の良いスタートを切れたからこそ、今回の研修を活かして充実した日々を送り、社会に出て恥ずかしくない大人に成長してもらいたいものだ。

事務室だより

事務長 山崎 昭男

梅雨時になるとあじさいの花の色が、あでやかな色になるというが、今まさにその時である。本年四月人事で、事務室に若手男性が一名採用され、何年かぶりに新風をまきおこしている。放課後は、野球部のコーチもつとめる等多忙な日々を送っている。本校の将来をになう人材として、全員で大事に育てていかなければと考えているところである。

もうすぐ暑い夏がやってくるが、全ての運動部がきたるべき大会にむけ練習に励んでいる。昨年は野球部が五回戦に進出し、県内外の高校野球ファンに山村国際高校を印象づけることができた夏であった。昨年はベストエイトを決める試合までノエリートというすばらしい守備であったが、今年も好守の山国を期待したい。修学支援金の六月分までの申請は終了し、今後は七月分からの申請となります。県の父母負担事業の申請は、六月下旬に書類を配布する予定で、現在県からの書類をまわっているところです。今年も保護者の立場で、申請事務を進めていきますので、御協力よろしくお願います。